

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

横浜ゴム株式会社 尾道工場

(2) 事業所の所在地

広島県尾道市東尾道20番地

(3) 業種

自動車タイヤ・チューブ製造

2 計画の期間

本計画の期間は、平成25(2013)年度を基準年度とし、令和4(2022)年度から令和12(2030)年度までの9年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂）、削減率（%）

温室効果 ガスの種類	基準年度 排出量(a)	目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：実排出量(d)、下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成25年度 (2013)	令和12年度 (2030)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)
エネルギー 起源CO ₂	22, 125	13, 717 38. 0	13, 510 38. 9	14, 637 33. 8	15, 241 31. 1	100. 0	100. 0
非エネルギー 起源CO ₂		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
メタン		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
一酸化二窒素		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
その他 温室効果ガス		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
温室効果ガス 実排出量総計	22, 125	13, 717 38. 0	13, 510 38. 9	14, 637 33. 8	15, 241 31. 1	100. 0	100. 0
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する 自己評価	設備投資、運用改善を継続的にを行い、目標年度削減率以上の削減ができた。						

※ 削減率(c) = ((a)-(b))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

温室効果 ガスの種類	基準年度 原単位 (a)	目標年度 上段：原単位 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d)、下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()
エネルギー 起源CO ₂		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
非エネルギー 起源CO ₂		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
メタン		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
一酸化二窒素		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
その他 温室効果ガス		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
温室効果ガス 排出量総計		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
エネルギー消費 原単位 (原油換算kl)		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
実績に対する 自己評価							

※ 削減率(c) = ((a)-(b))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	削減量等	具体的な取組
1	電気の使用に伴う排出	CO2排出量2013年度比 1757t-CO2削減	・LED照明器具への更新 ・季節変動、機械停止時の電力消費適正化 ・ポンプのインバータ化
2	燃料の使用に伴う排出	CO2排出量2013年度比 5126t-CO2削減	・蒸気配管、温水配管等の断熱強化 ・加硫機本体遮熱塗料塗布 ・スチームトラップを省エネタイプに変更
3			
4			

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合 計 量
1		
2		
3		

○ その他の取組

	項 目	削減量等	具体的な取組
1	地域・社会貢献活動	ゴミ回収 （合計28kg）	周辺道路の清掃活動
2	地域・社会貢献活動	苗木の無料配布（100本） 花の無料配布（200本）	工場近隣のお祭り 藤井川の夕べ参加
3	雨水排水溝暗渠化	油分等の外部流出リスク低減	雨水排水溝暗渠化

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。